

博士論文の審査結果の要旨

専攻	医療・生命薬学専攻	分野	
学籍番号	13R3001	院生氏名	荒西 利彦
通学キャンパス	東京青山キャンパス		
論文題目	薬剤経済評価の不確実性とその対処法		
審査結果(枠で囲む)	合格		不合格
<p><審査結果の要旨></p> <p>1. 主論文について</p> <p>1) 研究の概要</p> <p>薬剤経済評価は、様々な臨床試験、データベースを統合するものであるため、これらに含まれる不確実性の影響を受けることが考えられる。薬剤経済評価の結論は償還可否などの結論に影響を与える可能性があり、不確実性の影響を考慮することは重要な課題である。本研究では、薬剤経済評価における不確実性の影響に関する現状の把握と解決策の提案のため、その原因、対応方法の整理を行った後、不確実性の評価の現状調査を行った。次いで、既存の評価法における課題を整理し、その解決策として新たな方法を提案した。この結果、今後国内における評価で不確実性の評価がより詳細に行われるために、確率的感度分析に関するガイドライン等の整備が望まれることが結論付けられた。さらに、不確実性の評価指標として、現在使用されている Expected Value of Perfect Information (EVPI) を改変した EVPIif を新たに提案し、その性質を調べた。その結果、新規評価指標の EVPIif を追加情報取得のための研究投資の評価に用いる場合に論理的に正しい結論を導くことを示した。</p> <p>2) 研究方法は、論文のレビューやシミュレーションによるものであり、適切に実施された。倫理的問題に抵触する内容は含まれていない。また、本論文を構成する論証、論文形式も適切に記載された。</p> <p>3) 本研究の新規性は薬剤経済評価の不確実性の現状を明らかにし、不確実性についての新規評価指標を提案した事にあり、今後、保険医療行政において、注目されている薬剤経済評価の堅牢性に貢献する研究として高く評価できる。特に本論文を構成する英語論文については当該分野の学術的発展に大きく寄与する可能性が認められる。</p> <p>2. 口頭試問において著者は適切に応答し、審査員の指摘に対し適切に論文が修正された。</p> <p>3. 以上の結果から、審査会の審査員全員は本論文が著者に博士(薬学)の学位を授与するに十分な価値があるものと認めた。</p>			
論文審査担当者	<p>主 査 山田 治美</p> <p>副 査 浅野 哲</p> <p>副 査 清水 貴壽</p>		